修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　早川泰雄
東京都千代田区西神田
2丁目8－7（暢ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）3－36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務である。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

本年度の要保護
文部省 修学旅行の補助金

胸ふくらむ修学旅行（東京駅、事務局うつす）

3万4千円に
緊縮予算の影響で微増
中学校

五十七年度政府予算が成立し、要保護、準要保護あよび、高度へき地の児童生徒に対する修学旅行費と校外活動費の援助補助金が決定した。修学旅行費は中学校一人当り三万四千円、小学校一万六百円である。前年度に比べ、中学校は七百円、小学校は三百円の増額にとどまった。全修協（山本種一理事長）と関東東海近畿三地区修旅委連絡協（鯉渕一郎会長）では中学校三万七千二百円、小学校一万四千六百円を要望してきたが、文部省概算要求額は、中学校小学校とも予算決定額と同額であった。

修学旅行と校外学習は、特別活動として教育課程に位置づけられ人間形成に欠くことのできない重要な教育的意義をもっている。したがって諸物価高騰の影響をうけて、特に要保護、準要保護家庭の子弟並びに、へき地校の児童生徒が、経済的理由で参加できなくなることのないよう、全員参加をめざして、五十六年八月、㈱全修協と三地区修旅委連絡協は、当該児童生徒に対する補助金について、五十七年度さらに増額するよう、強く文部省に要求してきた。文部省の概算要求と大蔵省の査定から推しても、現下の国家財政のきびしい状況が表われているが、五十八年度は後退することなく、義務教育の小・中学校児童生徒の全員参加を願い、要保護、準要保護並びに、へき地校の子弟に対する援助補助金の増額について、さらに強い運動が必要である。
（中学校）
修学旅行費は文部省概算要求どおり、生徒一人に対し、五十六年度の三万三千三百円から、五十七年度は、わずかに七百円アップの三万四千円、対象人員は昨年の九万四千六百七十六人から、本年度は十万三千八百三十四人と増えている。
また、校外活動費は準要保護生徒だけ対象として、①宿泊を伴わないものは、五十六年度の九百十円から三十円アップして、五十七年度は九百四十円、対象人員は昨年度の二十三万七千三百十七人から、本年度は二十五万二千四十五人と増えている。②宿泊を伴うものは、五十六年度の二千百四十円から九十円アップして、五十七年度は二千二百三十円、対象人員は昨年度の四万二千百三十人から、本年度は三万一千六百三十四人と人員を減じている。
（小学校）
修学旅行費は、児童一人に対して、五十六年度の二万三百円から三百円アップして、五十七年度は一万六百円、対象人員は昨年度の十一万八千一百七十二人から、本年度は十万九千八百三人に、人員を減じている。
また校外活動費は、準要保護児童だけを対象として、児童一人に対して、①宿泊を伴わないものは五十六年度の六百十円から三十円アップして六百四十円、対象人員は、昨年度の五十四万九千六百八十六人から、本年度は五十四万八千五百七十八人に人員を減じている。②宿泊を伴うものは、五十六年度の一千四百五十円より百三十円アップして、五十七年度は一千五百八十円、対象人員は、昨年度の四万二千百十三人から、本年度は三万一千六百三十四人と人員を減じている。全般的に増額の幅がわずかで、人員減の場合が多い。
（援助費補助金の予算合計額）
要保護、準要保護のうち、中・小学校合わせて、修学旅行費補助については、五十六年度の二十一億九千三百八十万七千円から、五十七年度は二十三億五千六百二十万三千円となり、一億六千二百四十二万五千円の増となっている。
また校外活動費補助については中・小学校合せて、五十六年度の三億六千二百九十九万五千円から五十七年度は三億七千三百七万五千円となり、一千八万円の増を示している。
（高度へき地）
修学旅行費の補助金は、要保護準要保護と同額とされている。一・二級へき地の児童生徒に対しても全修協が例年要望してきたが、本年度も見送られた。

本年度全修協事業の基調（二）

当協会の本年度事業執行の基調については、去る三月三日の第二十三回通常総会の第2号議案の提案の際、白滝専務理事から説明があったが、その骨子となるもののうち前号において、全修協運動が誕生した社会的、教育界の事情について述べた。本号はその歴史的使命を達成するため、特に本年度において、力点として取組みつつある諸点について述べたい。

学旅行の新しい意義の究明、実態の把握、教育内容の研究に取り組もうとしているのである。
この教育研究の目標を具体化するため、われわれは、各地区の修学旅行委員会と一体的活動をもって、研究発表、問題究明のための討論活動、また教育情報の収集・広報活動等を活発に行なう。
特に、新しい教育課程にもとずく豊かな人間性を育てる立場から、自主的活動を主とした修学旅行の実践をめざした諸運動を進めたい。
また、各地区の修学旅行委員会の、新たな拡充組織化を企図して行動を起す計画である。
次に、研修旅行の分野であるが、基本的にわれわれは、修学旅行と研修旅行を二元的に考える。研修旅行の目的は、教師の教育力量の向上、教職員福祉の充実にあるのであることは改めていうまでもないところで、本当の意味の福祉のための旅行は、単なる〝アソビ〟、または、〝ミル〟ことでなく、〝ズル〟すなわち体験行動すること、その中に、教職員自らの人間性を深めるものでなければならない。
協会活動としての、研修旅行はそういう次元に立ったものでなければならないのだが、そうした目的に達し得ないマンネリ化を、大いに自己批判して、前進しなければならないと考える。
そのために、学校現場における教職員の生活と密着し、その動向に精通している教職員福祉問題研究会のメンバーを、協会の研修旅行特別企画委員に委嘱し、その一体的研究の中から、具体的に新しい研修旅行の分野を拓こうとするものである。
こうした質的な改新と相まって研究旅行参加者倍増の運動組織化を絶えず整備し、三ヵ年目一万名をめざして進んでいるが、これが全修協運動の質量ともに、新しい途をひらくものでありたいと切に念願しているところである。
そのために、五十七年度を第一年度とする三ヵ年計画をたてて、その構図の中で、協会の力量の倍増を図りたいと考えているのである。
まず、修学旅行の分野ではこれまで二十六年間にわたって鋭意努力してきた教育条件の整備運動を、絶えず洗い直して進めるとともに、特に現代の教育における修学旅行委員会の役割の把握、教育内容の研究に取り組もうとしているのである。
この教育研究の目標を具体化するため、われわれは、各地区の修学旅行委員会と一体的活動をもって、研究発表、問題究明のための討論活動、また教育情報の収集・広報活動等を活発に行なう。
特に、新しい教育課程にもとずく豊かな人間性を育てる立場から、自主的活動を主とした修学旅行の実践をめざした諸運動を進めたい。
また、各地区の修学旅行委員会

運賃据え置き
一学期中は旧運賃で実施

三月十七日、全修協（山本種一理事長）と関東・東海・近畿三地区公立中学校修旅委連絡協（鯉渕一郎会長）は、四月二十日からの国鉄の運賃・料金値上げに関し、国鉄当局に対し、五十七年度内は旧運賃旧料金を適用して、学校間格差の生じないよう、特別措置を強く要請していたが、次のとおり回答があった。
国鉄当局においても、日本の将来を担う小・中学生のため、要請の趣意に対し、誠意をもって対応し修学旅行の教育的意義の重要性を充分理解し、各修学旅行委員会と連けいを図りながら、修学旅行の安全輸送計画のため、努力してきた。五十七年度も専用電車の特急料金の五割引きを行ない、一学期中の修学旅行は、旧運賃、旧料金を適用する。
このことにより、新旧運賃、料金の差額を、昭和五十七年度一学期に終了する三地区修旅委の公立中学校輸送計画の人員により積算すると、関修委関係で約一億四千八百万円、東海三県修旅委で約八千二百九十万円、近畿二府四県修旅委で約一億八千四十五万円が試算される。
全修協として、三地区公立中学校修旅委連絡協を総合すると、約五十二万二千人の中学生の修学旅行のために、全修協が約四億円の修学旅行費軽減と、安全輸送に貢献することとなる。

55万9千人を安全輸送
58年度・三地区修旅委

関修委では五十八年度においてABC三コースを合わせて、七百六校十八万三千百七十六人を、東海道新幹線を利用して関西方面に輸送する計画である。
近畿二府四県修旅委では、関東信州・中国九州の三方面に分かれ七百二十五校二十二万八千八百四十三名を輸送する。全修協として総合計約五十五万九千人の安全輸送の使命を果たすこととなる。
東海三県修旅委では、五三九校十四万七千百十五名を新幹線と、こまどり号を利用して輸送する。

奥田元男 徳島県支部長 氏に叙勲

㈱全修協徳島県支部長奥田元男氏は、この度の春の叙勲に当り、長年の教育功労により、勲四等瑞宝章の栄与に輝いた。
氏は明治四十五年四月二十七日生まれ、昭和八年同志社高商卒、徳島県内の小学校の訓導、徳島商業学校教諭、県立穴吹高校長、県教委管理課主査、鳴門高校長、徳島商業高校長などを歴任した。

奥田元男氏
支部長就任は昭和五十四年四月一日からである。
現住所は徳島市上八万町花房三〇四。

風紋

五月の風薫る今日この頃、人は野や山に散策する。そして鳥や花をめずる▼「ひとり徒歩で旅をしたときほどゆたかに考え、ゆたかに存在し、ゆたかに生きいきさせる何ものかをもっている」とルソーは「孤独な散歩者の夢想」のなかで語っている▼「自然に還れ」と唱える彼以前に、西欧には自然讃美はなかった。一般に山はきたないもの、徒歩旅行は難民のするもの、庭園の花は憂しても、美しい田園の風景を楽しむという感覚はあまりなかった▼ルソーとほぼ同時代の芭蕉は片雲の風にさそわれ、漂泊の思いやまず「奥の細道」の旅に出た。後三百年近い現代、五十七年二月二日付け朝日新聞夕刊の記事によれば、一九八〇年七月十三日、森の散策を好むフィンランドの詩人、カイ、ニエミネン氏は「奥の細道」の翻訳を一応終え、芭蕉ゆかりの地を訪ねた▼東京深川から徒歩で、千住、日光、裏見の滝、黒羽、雲巌寺、那須湯本を経て、二十七日目新潟で旅を終えた。酒蔵の主人に歓待され、夜を徹して語り合い、村人の家に招かれて、東北の人々の温かい心に触れる旅であったという。彼の言によれば、「その場において確かめたいことがあったし、芭蕉の旅の実感を味わいたい」と▼雄島の高みに立ってみて、この旅に求めたことが明らかになった／空は紅く染まり、雲が丘の上を飛び／遅れて帰る舟が入江を滑っていく／ふいに鴎が鋭く鳴いて、海に急降下するのが見えた／一瞬、私たちの、あの隔りが消えた／もはや波を探してはいなかった／その必要もなくなった／私は彼の見たものを見、感じたものを感じていた」と。歩くことによって得た追体験である▼乗物をすてて旅は始まるといわれる。最近、修学旅行も随時歩くコースを選ぶようになった。自然歩道、ハイキング、登山など自然の光と影の交錯するなかを、先人の跡を訪ね、自然観察のひとときをもっと楽しもうではありませんか。（S）

信頼される旅づくり
こんな笑顔、残してあげたい。
修学旅行
近畿日本ツーリストは、生徒のみなさんに素晴らしい修学旅行を…の願いから、教育映画の制作に取り組んでいます。現在のライブラリーは、中学・高校生を対象とした『学習の旅シリーズ』全15篇。そして社会・文化・歴史・教育・観光・自然など、幅広い分野から制作された『ツーリスト映画シリーズ』全15篇（国内10・海外5）。いずれも修学旅行の事前指導、学習教材としてご活用いただけます。ツーリストはこのような文化活動を通じて、教育・一般社会のみなさまにお役に立つよう、努力を続けています。

◎ツーリスト映画リスト　※修学旅行の事前指導や学習教材に、どうぞお気軽にご利用ください。

学習の旅シリーズ			ツーリスト映画シリーズ（国内）			ツーリスト映画シリーズ（海外）		
題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞	題名	上映時間	受賞
北海道・道東	20分		北海道	29分	文部省選定	ヨーロッパの旅	30分	日本産業映画奨励賞（第14回）
北海道・道南	20分	文部省選定	京都の庭園	26分	文部省特選			
東日本北	20分		京都の川	34分	文部省特選・芸術祭大賞（46年）	大いなるアメリカ	30分	
東日本東京	15分	文部省選定				アメリカ西海岸の旅	30分	
富士箱根	15分		大和の塔	38分	文部省選定	ハワイの休日	33分	
信州都良	20分	文部省選定	大和の石	25分	文部省選定・文部大臣賞	東南アジア	30分	
京奈	20分	文部省選定			文部省選定・文部大臣賞			
伊勢志摩	20分	文部省選定	大和の道	25分				
山陽山陰	22分		南紀	28分				
九州やまなみ	23分	文部省選定	瀬戸内海	28分	文部省選定			
九州西海	20分	文部省選定	沖縄	31分	文部省選定			
南九州	20分	文部省選定	うつわ（食器の文化）	41分				
光あふれる沖縄	21分							

近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号

57年度

事業計画きまる
関修委運営委員会で

五十七年度関東地区公立中学校修学旅行委員会第一回運営委員会が五月六日本年度総会に備えて、東京文化会館で開かれた。全修協からは白滝専務理事兼修学旅行部長と西沢修学旅行部次長が出席した。

飯村関修委事務局長（水戸一中校長）より開会を宣し、続いて高橋運営委員長（鳩ヶ谷中校長）と白滝全修協専務理事から、次の要旨の挨拶が述べられた。

高橋運営委員長からは、本日の会議は、五十九年度輸送計画に関係し、東北新幹線利用の修学旅行について、国鉄との懇談に重点をおかれたい。

また専務理事からは、山本種一理事長代理として、①全修協の発足と歩み、②全修協運動の使命について力説し、特に修学旅行の安全性、教育性、経済性と、教職員の研修経行・福祉を強調された。その一環として、全修協特別企画により、八月二日から八月十一日までの〝ソ連教育・文化視察団〟の研修旅行の推奨があった。

続いて高橋運営委員長司会のもとに報告事項に入り、西沢関修委事務主幹より、昭和五十六年度会務報告と決算報告をし、沢田監事が監査報告を行なった。

協議事項は、総会提案のために次の案件について、各運営委員より、綿密な検討が加えられ、協議が進められた。

一、役員選出について（会長、副会長、運営委員長、運営副委員長、事務局長、会計、監事）

二、総会並びに運営委員会

三、研究発表会

四、昭和五十七年度事業計画案

①第一回運営委員会五月六日（木）

②総会、第二回総営委員会、六月十一日（金）、十二日（土）

③三地区総会　近畿二府四県修旅委の決定をまつが一応目安として、七月二日（金）、三日（土）

④東北方面現地研修会　東北新幹線と修学旅行の関係もあるので、一応計画を立てる、八月十八日（水）―二十日（金）

⑤第三回運営委員会　五十九年度輸送計画の基本を協議する九月三日（金）

⑥第四回運営委員会　五十九年度輸送計画割付を完了する、十一月十一（木）、十二日（金）

⑦三地区代表者会議　東海三県修旅委の決定によるが、一応目安として十一月二十五（木）、二十六日（金）

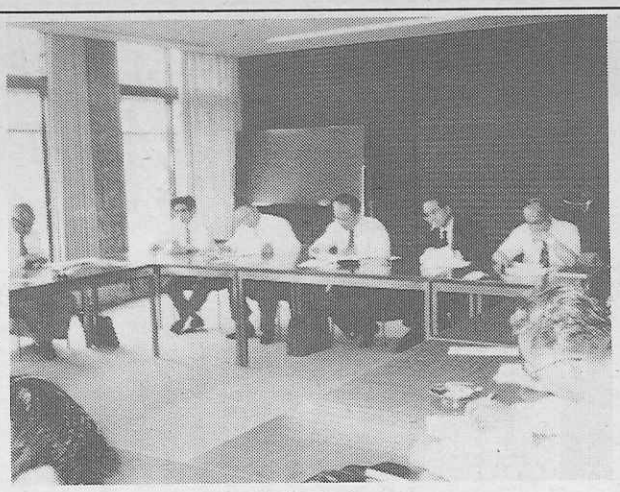
⑤関西方面現地研修会　有意義、好評であり、一応計画を立てる。十二月二日（木）―四日（土）

⑥研究発表会、第五回運営委員会期日は当該の千葉県に一任

⑦第六回運営委員会、二月二十四日（木）

五、国鉄との懇談

首都圏旅客課菊池係長が出席され、東北新幹線利用の五十九年度修学旅行の大事な問題について、協議が進められた。五十九年度は現在未確定のこともあるが、団体枠の人員、運賃料金の特別割引、列車発着駅と時刻等について、実現可能で確かなモデル案を作成し、総会にはかった上で、各中学校の申し込み希望をとることとなった。



関修委運営委員会

友の会が発足
―全修協東京都支部―

財団法人全国修学旅行研究協会東京都支部（青山良道支部長）では、全修協運動の都内教育界へのいっそうの浸透を図り、当面最大の課題である夏季研修旅行の参加者拡大を組織的に進めるための方策についての研究会を、四月二十四日（土）全修協本部で開催した。

研修旅行については、「教師が同行する母親研修・子どもの勉強の場も与えるような企画」「フリータイムの多い若い人向き企画」「学校としての職員旅行よりも、学年旅行が増えている現状をふまえた短期間の企画」「旅行会社の社員は一ヵ月一回は必ず学校をセールス訪問しているから、その機会における個人勧奨」「高校の先生には教科に合ったテーマを盛り込んだ企画が必要」などの意見が出されたほか、全修協運動全般にわたって現場経験にたっての貴重な意見があり、この日の出席者を発起人として全修協東京友の会を発足させることが決定された。

入出席者／前新宿区立戸山中学校長小倉久夫氏・杉並区立和泉中学校教頭秀平泰男氏・文京区立真砂小学校教頭桧山清之助氏・都立小石川高校仲瀬律久氏・全修協から白滝専務理事、前田事務局長、金谷部長、竹内課長、内山主任。

西尾会長

研修旅行の拡大を
教福研幹部会ひらく

教職員福祉問題研究会（会長・西尾能信滋賀県教職員互助会常務理事）では、正副会長と常任幹事による幹部会を、五月七日東京で開催し、教福研の運動のすすめ方についての基本的諸問題と、姉妹団体である全修協の夏季研修旅行の計画達成のための協力について協議した。

運動推進については、教福研に対する理解の浸透を図るため、会員の母体各教育団体における認識を深めていくこと、財政面については、当面寄付金、助成金によるとしても、将来は独自財政計画を確立すべきことなどが協議された。

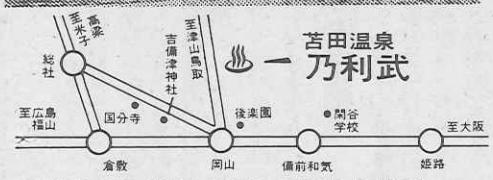
また、教職員福祉のなかにおける旅行という視点に立てば、その担い手は全修協であり、本年を第一年度とする全修協の「研修旅行拡大三ヵ年計画」に協力して、旅行分野における教育福祉の拡充をすすめるため、新しい発想による企画の開発が必要であり、そのためのひとつの方法として、現在各県教職員互助団体で実施しているフィールドワークを全国的規模に広げるため、各互助団体からの企画提供などの協力を得るために研究会を開催すること、さらに、当面の課題として、夏季研修旅行の目標達成に積極的協力体制をつくるため、来る五月三十一日京都において拡大幹事会を開催し、研修旅行に安定して多くの参加者を出している各県（福島、兵庫、山口等）の実践を参考とする具体的方策を検討することなどが決定された。出席者（敬称略）▼顧問・山本種一全修協理事長▼会長・西尾能信▼副会長・神代義秀（大阪）鈴木春之助（東京）▼常任幹事・明賀猛（京都）白滝末紀（全修協）▼事務局・前田寛（金修協）

教福研幹部会

山陽路 岡山のお宿

10,000坪の庭園を擁し、おもちつき、また、ファイアーストームを囲んでのフォークダンスなど、楽しいリクリエーションタイムをご用意して、皆様方をお待ち申し上げております。(500名可能)

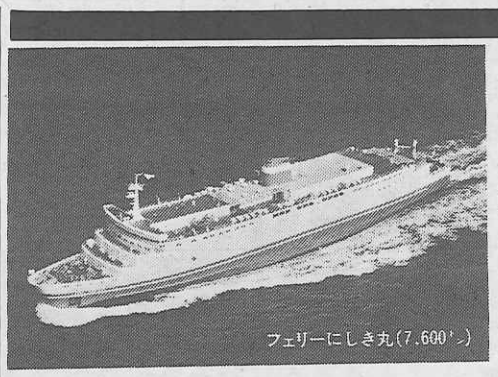
昼食休憩・ガーデンパーティーもご予約を承わります。



■岡山駅より車で15分・バス25分。■中国自動車道、津山インターより45分。

政府登録国際観光旅館
苫田温泉（とまだ）乃利武

〒701―11　岡山市桂谷1453
☎086294―2321　TELEX. 5922―621



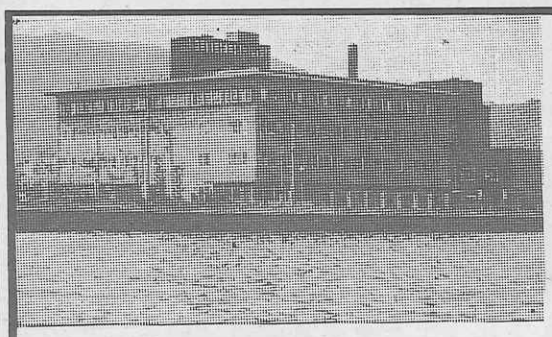
フェリーにしき丸(7,600㌧)

思い出の修学旅行
印象的な――
瀬戸内海の船旅。

●阪神／別府直行・大型フェリー(毎日1便)
●阪神／別府航路(毎日2便)
●阪神／小豆島・高松便(毎日1便)
★貸切船「さんふらわあ7」「こはく丸」もご利用ください。

お問合せは　関西汽船

●大阪市北区梅田1―1・TEL(06)344-7031
●東京都中央区八重洲1―4―14・TEL(03)274-4273
及び、各地支店駐在員、旅行代理店へ



いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ

収容　６００名様
浴場　１５０名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台

政府登録
国際観光旅館　びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2―25　電話　大津(0775)24―2321

育てる心は、みんな同じ。

●営業時間
9:00～17:00（3月16日～11月15日）
9:30～16:00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金　高校生 1,000円
中学生 700円、小学生　600円

別府あじむ草原
アフリカンサファリ
〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
☎（09784）8―2 3 3 1(代)

「今日」に触れ、学び、修める、モートピア体験。

興味こそ学びの原点。モータリゼーションへの興味を通して、若者のこころに語りかける有意義な修学旅行が、多くのご支持をいただいています。

エンジン教室、工場見学、実際に運転できるのりもの…。ゆたかな自然のなかで、触れて、確かめて、楽しみながら理解する。それがモートピアでの修学旅行です。鈴鹿サーキット、多摩テックには、そんな意義深い体験を快適なものにする施設がいろいろ。リラックスできる専用ホテルでのお食事や、キャンプ場での野外炊飯をはじめ、旅の夜を彩るファイア・ストームの解放感に、忘れ難い思い出がつくられることでしょう。

陽気なビッグ・レジャーランド
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市稲生町7992／☎(0593)78-1111
●名古屋または大阪より近鉄特急白子駅下車直通バス
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離。
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

緑のモートピア
多摩テック
〒191 東京都日野市程久保1／☎(0425)91-0820
●京王線多摩動物公園駅下車直通バス

ご視察のお申し込み、資料ご請求は…
株式会社ホンダランド
名古屋営業所/修学旅行課:〒450 名古屋市中村区名駅3-12-12
竹生ビル☎(052)571-7176
本社/東京営業所:〒104 東京都中央区八重洲2-6-20
ホンダ八重洲ビル☎(03)274-5821
大阪営業所:〒530 大阪市北区芝田2-1-1
阪急芝田町ビル☎(06)372-1526